

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-315690

(P2006-315690A)

(43) 公開日 平成18年11月24日(2006.11.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 33/30 (2006.01)	B 6 5 D 33/30	3 E 0 6 4
B 6 5 D 77/04 (2006.01)	B 6 5 D 77/04	B 3 E 0 6 7
B 6 5 D 77/06 (2006.01)	B 6 5 D 77/06	G
B 6 5 D 77/12 (2006.01)	B 6 5 D 77/12	F

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号	特願2005-137323 (P2005-137323)	(71) 出願人	505170015
(22) 出願日	平成17年5月10日 (2005.5.10)		有限会社日章コーポレーション
			名古屋市緑区有松町桶狭間幕山58-189
		(74) 代理人	100107700
			弁理士 守田 賢一
		(72) 発明者	是澤 秋好
			名古屋市緑区有松町桶狭間幕山58-189
			有限会社日章コーポレーション内
		Fターム(参考)	3E064 AA01 BA21 BC18 EA01 EA21
			FA03 HM01 HN11 HN29 HS05
			3E067 AA01 AB01 AC01 BA01C BA12B
			BB14B EA23 EA32 FA04 FB15
			FC01 GD10

(54) 【発明の名称】 閉止部材とこれを使用した搬送容器

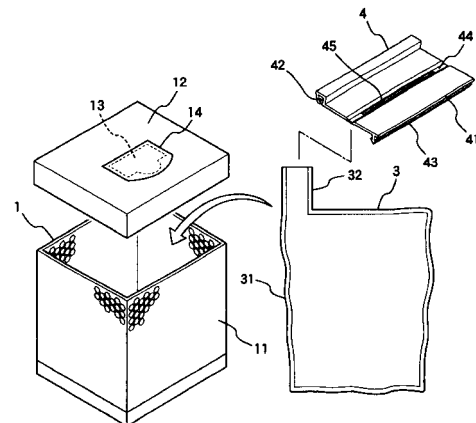
(57) 【要約】

【課題】 閉止部材と、これを使用して開閉可能に袋容器の開口のシール性を確保した安価な搬送容器を提供する

【解決手段】 容器枠1とその内部に収納される樹脂フィルム製の袋容器3を備え、袋容器3にはこれより延出する扁平な帯状の給排用開口部32が形成されている。閉止部材4は、長尺の樹脂製基体41の一側縁に嵌合凹部42が形成されるとともに他側縁に嵌合凸部43が形成され、基体41の中央部44が薄肉とされて当該中央部44に沿って折り曲げることにより嵌合凸部43が嵌合凹部42に進入し嵌合する。給排用開口部32を閉止部材4の切離し部45に挿通した状態で嵌合凸部43と嵌合凹部42を嵌合させて給排用開口部32を閉止する。

。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

長尺の樹脂製基体の一侧縁に嵌合凹部が形成されるとともに他側縁に嵌合凸部が形成され、前記基体の中央部が薄肉とされて当該中央部に沿って折り曲げることにより嵌合凸部が嵌合凹部に進入し嵌合するようになし、かつ前記中央部にはこれに沿って延びる所定長の切り離し部を形成したことを特徴とする閉止部材

【請求項 2】

前記基体の一侧縁と他側縁の端面を略平行に傾斜させた請求項 1 に記載の閉止部材。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の閉止部材を使用した搬送容器であって、容器枠とその内部に収納される樹脂フィルム製の袋容器を備え、当該袋容器にはこれより延出する扁平な帯状の給排用開口部が形成されており、当該給排用開口部を前記切り離し部に挿通した状態で前記嵌合凸部と嵌合凹部を嵌合させて前記給排用開口部を閉止してあることを特徴とする搬送容器。 10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は閉止部材とこれを使用した搬送容器に関するものである。

【背景技術】

【0002】

近年、流体や粉体、あるいは果実や水産品等の搬送のために従来のスチール缶やダンボール箱に代えて、再使用可能な容器枠内に樹脂フィルム製の袋容器を収納したものが利用されつつあり、その一例を図 9 に示す。図 9 において、容器枠 1 は、上方へ開放し側壁 1 が孔空きの樹脂板よりなる容器部 1 1 と、当該容器部の開口に覆着される蓋部 1 2 とからなる。蓋部 1 2 には一部に袋容器 2 のキャップ部 2 1 を挿通するための抜き穴 1 3 が形成されて、ラベル 1 4 で閉鎖されている。一方、袋容器 2 にはその一部に筒開口 2 2 が形成されてこれに上記キャップ部 2 1 が装着されている。このような搬送容器を使用する場合には、袋容器 2 を容器枠 1 の容器部 1 1 内に挿置し、蓋部 1 2 の抜き穴 1 3 を閉鎖しているラベル 1 4 を一部剥がして、キャップ部 2 1 が装着された袋容器 2 の筒開口 2 2 を外方へ引き出す（図 10）。この状態で、キャップ部 2 1 を外して筒開口 2 2 から袋容器 2 内へ流体や粉体を注入する。 20 30

【0003】

なお、特許文献 1 には内側咬合子と外側咬合子を備えた袋用の帯状チャック体が表示されている。

【特許文献 1】特開 2003 - 93115

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、上記従来の搬送容器では、袋容器 2 の一部に立体的な筒開口 2 2 を形成する必要があるために成形に手間を要し、コスト高になるという問題があった。 40

【0005】

そこで、本発明はこのような課題を解決するもので、閉止部材と、これを使用して開閉可能に袋容器の開口のシール性を確保した安価な搬送容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本第 1 発明の閉止部材（4）は、長尺の樹脂製基体（41）の一侧縁に嵌合凹部（42）が形成されるとともに他側縁に嵌合凸部（43）が形成され、基体（41）の中央部（44）が薄肉とされて当該中央部（44）に沿って折り曲げることにより嵌合凸部（43）が嵌合凹部（42）に進入し嵌合するようになし、かつ中央部（44）にはこれに沿って延びる所定長の切離し部（45）が形成されている。本第 50

1 発明においては、袋容器の開口部を閉止部材の切離し部に挿通した後、閉止部材の中央部に沿って折り曲げて、嵌合凸部を嵌合凹部に進入嵌合させることにより、安価かつ容易に袋容器のシール性を開閉可能に確保することができる。

【0007】

本第2発明の閉止部材では、上記基体(41)の一側縁の端面(41a)と他側縁の端面(41b)を略平行に傾斜させる。本第2発明においては、上記中央部に沿って折り曲げて嵌合凸部と嵌合凹部を嵌合させた際に、基体の一側縁側と他側縁側で各端面が互いにずれる。これにより、互いにずれた両側縁を持って引っ張ることで嵌合凸部と嵌合凹部を容易に離間させてその嵌合状態を解消することができる。

【0008】

本第3発明の搬送容器は、容器枠(1)とその内部に収納される樹脂フィルム製の袋容器(3)を備え、当該袋容器(3)にはこれより延出する扁平な帯状の給排用開口部(32)が形成されており、当該給排用開口部(32)を本第1発明の閉止部材の切離し部(45)に挿通した状態で嵌合凸部(43)と嵌合凹部(42)を嵌合させて給排用開口部(32)を閉止してある。本第3発明においては、袋容器の扁平な帯状の給排用開口部を閉止部材の切離し部に挿通した後、閉止部材を中央部に沿って折り曲げて、嵌合凸部を嵌合凹部に進入嵌合させることにより、安価かつ容易に袋容器のシール性を開閉可能に確保することができる。

【0009】

なお、上記カッコ内の符号は、後述する実施形態に記載の具体的手段との対応関係を示すものである。

【発明の効果】

【0010】

以上のように、本発明によれば、閉止部材によって、搬送容器の袋容器の開口のシール性を簡易且つ安価に確保することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

(第1実施形態)

図1に本発明の搬送容器の一例を示す。搬送容器は容器枠1と袋容器3を備えており、容器枠1は従来と同一構造で、同一部分には同一符号を付してある。袋容器3は、二枚重ねにした略矩形の樹脂フィルムの外周を熱融着して袋状の容器部31としたもので、その一部は外方へ延出させられて延出端が開放し、扁平な帯状の給排用開口部32となっている。給排用開口部32を閉鎖する場合にはこれに閉止部材4を装着して行う。以下、閉止部材の詳細を説明する。

【0012】

図2において、閉止部材4は樹脂材よりなり、上記給排用開口部32を横断するに十分な長さを有する長尺の基体41を有している。基体41は、押し出し成形等によって成形された帯状体を必要長さに切断するか、あるいは射出成形等によって予め所定の長さで成形される。上記閉止部材4を構成する合成樹脂材は要求される閉止性能に応じて、ポリプロピレンやポリエチレン、塩化ビニル等を適宜使用することができる。閉止部材4の基体41には図3に示すように、一方の側縁に沿って略U字断面の嵌合凹部42が形成され、他方の側縁にはこれに沿って傘状断面に突出する嵌合凸部43が形成されている。また、基体41の中央部44は薄肉としてあり、ここには給排用開口部32(図1)の幅よりも長く延びる切離し部45が形成されている。

【0013】

搬送容器を使用する場合には、袋容器3を容器枠1の容器部11内に収納し、蓋部12の抜き穴13を閉鎖するラベル14を一部剥がして給排用開口部32を容器部11外へ引き出す。そして給排用開口部32から容器部31内へ流体や粉体を注入し、その後、給排用開口部32を閉止部材4の切離し部45に通してこれを給排用開口部32に装着する。この後、閉止部材4を薄肉の中央部44で折り曲げて嵌合凸部43を嵌合凹部42内に進

10

20

30

40

50

入させる。これにより、図 4 に示すように、嵌合凸部 4 3 と嵌合凹部 4 2 が嵌合状態となって閉止部材 4 が給排用開口部 3 2 に固定され、同時に、図 5 に示すように給排用開口部 3 2 が嵌合凸部 4 3 と嵌合凹部 4 2 の間で両側面が密接した状態で深く屈曲させられて、液密性および気密性を有する閉鎖状態となる。給排用開口部 3 2 を開放する場合には、閉止部材 4 の嵌合凸部 4 3 と嵌合凹部 4 2 を離間させてその嵌合状態を解消し、閉止部材 4 を給排用開口部 3 2 から抜き出す。

【0014】

このような搬送容器によれば、袋容器の一部に従来のような筒開口を設ける必要が無く、袋容器の容器部と扁平な給排用開口部とを一体かつ容易に成形することができるから、搬送容器を安価に実現することができる。

10

【0015】

(第2実施形態)

閉止部材 4 の基体 4 1 の端面 4 1 a , 4 1 b を図 6 に示すように略平行に傾斜させておくと、中央部 4 4 で折り曲げて嵌合凸部 4 3 と嵌合凹部 4 2 を嵌合させた際に、閉止部材 4 の端部において、鎖線で示すように、基体 4 1 の端面 4 1 a , 4 1 b が一側縁側と他側縁側で互いにずれる。これにより、互いにずれた両側縁を持って引っ張ることで嵌合凸部 4 3 と嵌合凹部 4 2 を容易に離間させてその嵌合状態を解消することができる。

【0016】

(第3実施形態)

閉止部材 4 の、U 字断面状嵌合凹部 4 2 の底壁に図 7 に示すようにゴム層 4 6 を形成すると、係合凸部 4 3 が進入した際にその先端がゴム層 4 6 に密接してさらにシール性を向上させることができる。

20

【0017】

(第4実施形態)

図 8 に示すように、基体 4 1 の一側縁側と他側縁側にそれぞれ一对の嵌合凹部と嵌合凸部を設けて、閉止部材 4 を中央部 4 4 で折り曲げた際に各嵌合凸部 4 3 が各嵌合凹部 4 2 内に進入嵌合するようにすれば、さらに良好な気密性や液密性を確保することができる。なお、嵌合凹部と嵌合凸部を各 3 個以上設けてももちろん良い。

【0018】

(その他の実施形態)

上記各実施形態において、袋容器 3 の給排用開口部 3 2 は必ずしも容器枠 1 外へ引き出す必要はない。また、閉止部材 4 は搬送容器に使用する以外に、種々の袋容器の開口を、気密性や液密性を確保して閉止する用途に広く使用することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【0019】

【図 1】本発明の第 1 実施形態における搬送容器の分解斜視図である。

【図 2】閉止部材の平面図である。

【図 3】閉止部材の端部斜視図である。

【図 4】閉止部材で袋容器の給排用開口部を閉止した状態の搬送容器の斜視図である。

【図 5】閉止部材を折り曲げた使用状態の断面図で、図 4 の V - V 線に沿った断面図である

40

【図 6】本発明の第 2 実施形態における閉止部材の平面図である。

【図 7】本発明の第 3 実施形態における閉止部材の要部斜視図である。

【図 8】本発明の第 4 実施形態における閉止部材の断面図である。

【図 9】従来の搬送容器の分解斜視図である。

【図 10】従来の搬送容器の斜視図である。

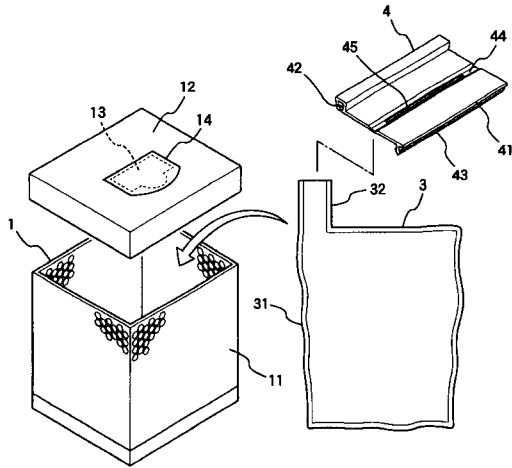
【符号の説明】

【0020】

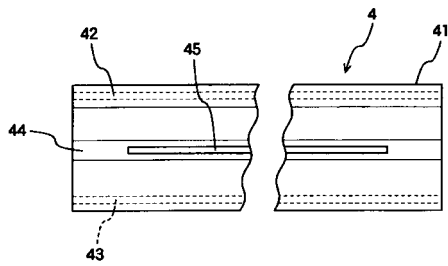
1 ... 容器枠、3 ... 袋容器、3 2 ... 給排用開口部、4 ... 閉止部材、4 1 ... 基体、4 2 ... 嵌合凹部、4 3 ... 嵌合凸部、4 4 ... 中央部、4 5 ... 切離し部。

50

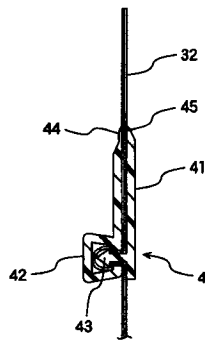
【図 1】



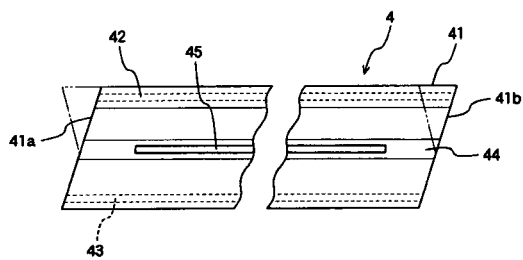
【図 2】



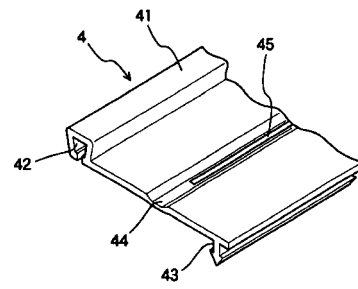
【図 5】



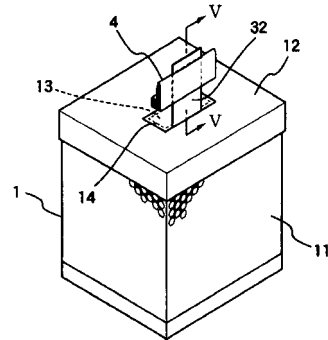
【図 6】



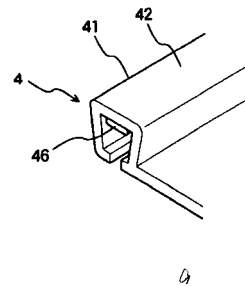
【図 3】



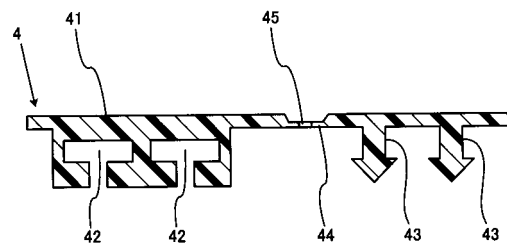
【図 4】



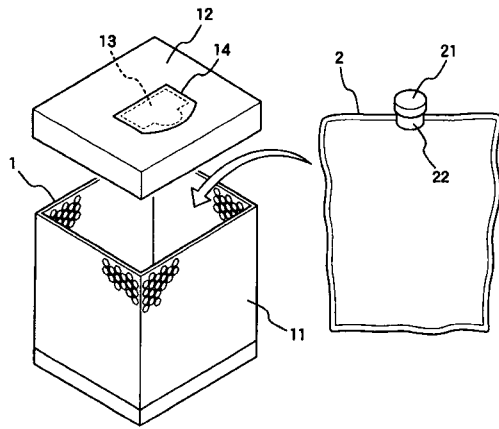
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】

